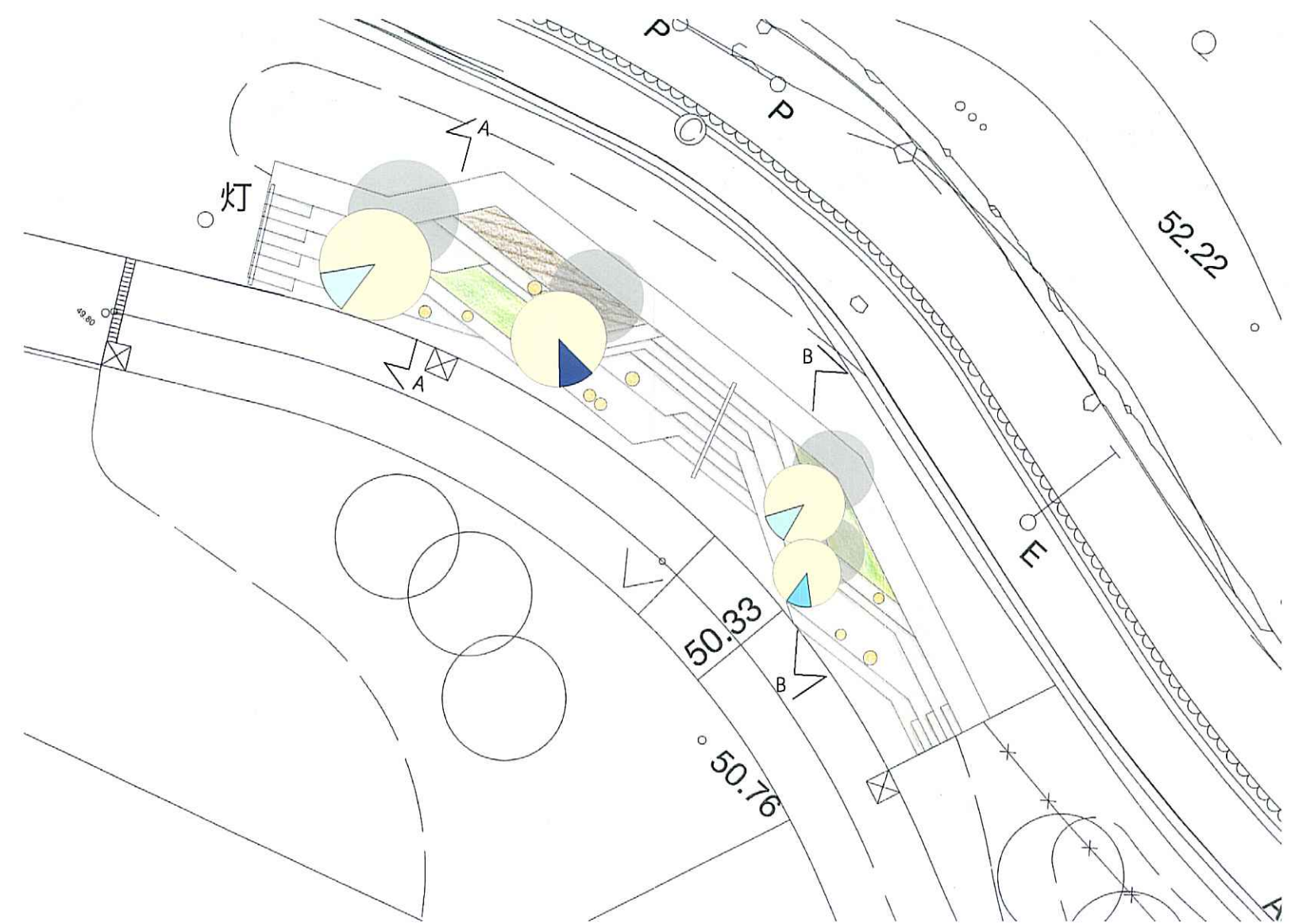
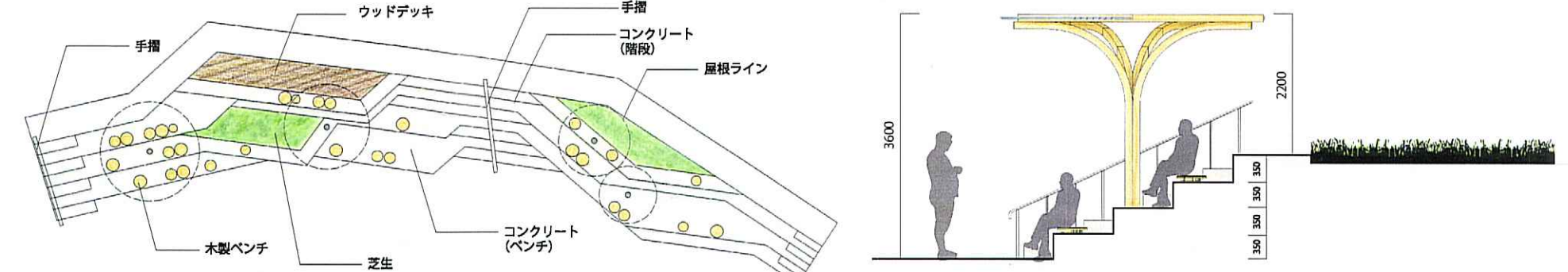


古往今来

古往今来（こおうこんらい）は「過去から未来まで綿々と続く時間の流れ」という意味があるため、昔から農業用のため池として使用されていた山田池の様々な歴史が未来の人々にもより長く伝わり続けて欲しいという願いを込め、このタイトルにしました。



配置図兼屋根伏図 1/200



平面図 1/200

A-A断面図 1/100

コンセプト

計画地の現状は、急な斜面があり、座ってゆっくり休憩ができるような場所ではないと感じました。そこで、その斜面を生かし、遊ぶ子供を見守りながら休憩できる場所を造りたいと考えました。計画範囲を休憩所エリアいっぱい広げ、開放的な雰囲気を目指し、斜面は「棚田」をイメージに階段状にし、人が座れるようにしました。山田池公園のシンボルとも言える山田池は、約1200年前から存在し、江戸時代には農業用のため池として使用されていました。この農業と段状というキーワードを元に「棚田」というイメージが生まれ、座る・登ることのできる休憩所ができました。屋根の説明にある蓮の葉は、池や棚田から連想して出てきた今作品のアクセントとなる重要なモチーフとなりました。

椅子について

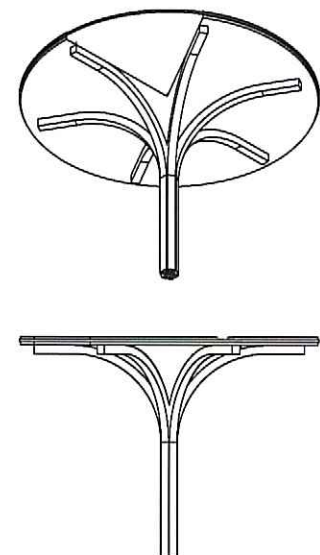
椅子も屋根と関連して、蓮の葉をモチーフにしており、座る時に冷たくないように木材（ヒバ）を使用しています。階段から少し座面を上げることで、水面から伸びる蓮の葉を表現しました。

構造：木造

- 屋根：ガルバリウム鋼板・板材（CLTパネル）
- 椅子：木材（円形）ヒバ
- 床：コンクリート
- 柱：集成材（曲げ）ヒノキ

屋根デザイン

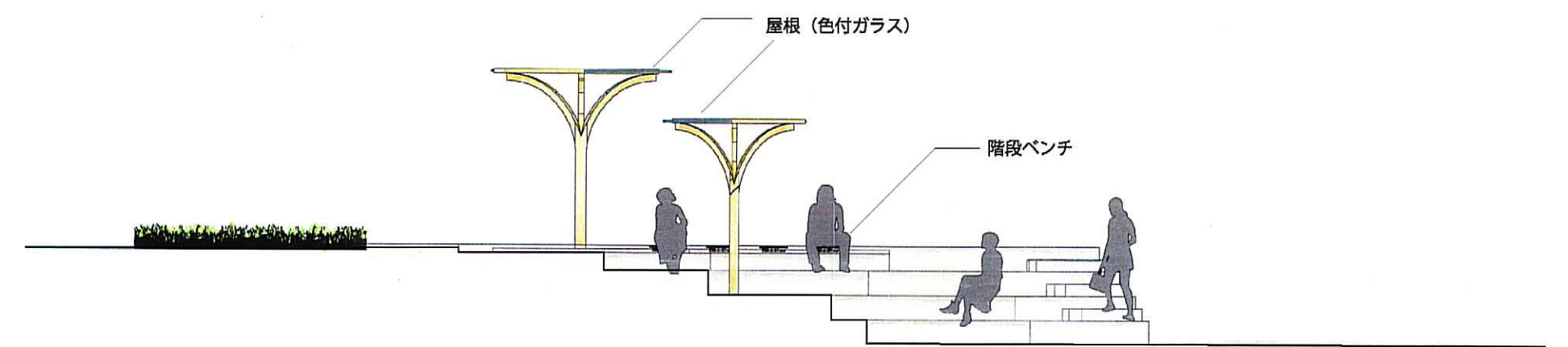
屋根は、池に浮かぶ蓮の葉をイメージしました。屋根の一部分を透過する素材にし、そこから日光が指し込めるようになっています。透過する部分の色は、池の水面に見えるよう、水色にしました。ここに日光が当たることにより地面にも水面が広がっているようにも見えます。屋根の内側は、葉脈をイメージした柱を張り巡らせました。



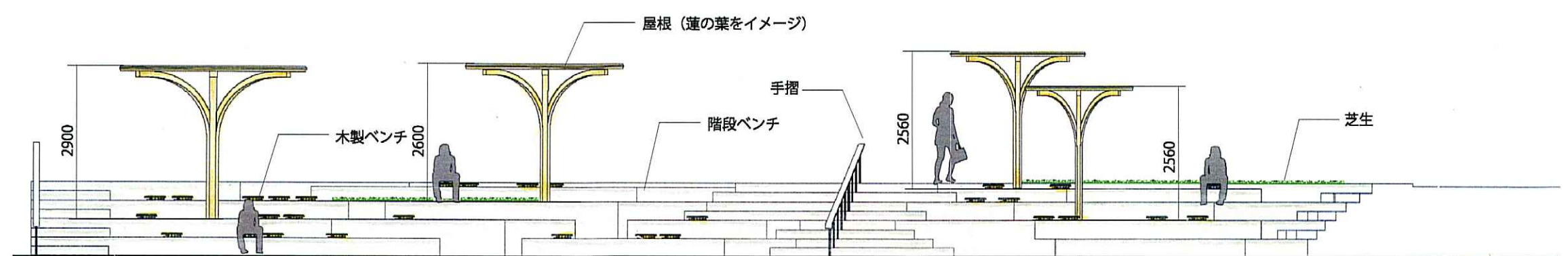
面積表（建築面積）

直径 3500	1,750 × 1,750 × 3.14 = 9.62 m ²
直径 3000	1,500 × 1,500 × 3.14 = 7.07 m ²
直径 2500	1,250 × 1,250 × 3.14 = 4.91 m ²
直径 2000	1,000 × 1,000 × 3.14 = 3.14 m ²

合計 24.73 m²



B-B断面図+立面図 1/100



南西立面図 1/100